



NEWS RELEASE

国土交通省 近畿運輸局

問い合わせ先

(所属) 海事振興部船員労政課

(担当) 田中、須谷

(電話) 06-6949-6435

令和8年9月16日

船員確保チャレンジ事業 児童養護施設と連携した船員確保対策事業を 大阪南港で実施しました！

内航海運は、日本経済を支える重要な産業ですが、船員の確保・育成が喫緊の課題となっています。そこで、近畿運輸局と各海運組合事務局およびその傘下会員事業者を構成員とする近畿内航船員対策協議会では、児童養護施設の児童を対象に、海の大切さと船員の仕事について学ぶ海洋学習や船舶の操船シミュレーター体験、そして普段見ることのできない船舶の船橋等施設などの船内の見学に合わせ、船員の方から仕事内容等について直接お話を聞くことにより船員という職業に興味を抱いていただくことを目指す事業を計画し、日本内航海運組合総連合会が行っている「船員確保チャレンジ事業」に応募したところ、採択されました。

採択された事業は、3施設と連携して実施しますが、今般、関係各位のご協力を賜り“社会福祉法人海の子学園”と実施しました最終3回目の事業の内容をお知らせいたします。

実施日： 令和8年8月29日（土）
連携施設： 社会福祉法人 海の子学園
 児童 13名、施設職員 5名
講師： 近畿内航船員対策協議会 磯合 信之 氏
協力： 株式会社商船三井さんふらわあ
 商船三井ミュージアム「ふねしる」



「C to Sea プロジェクト」
海と船がもっと楽しく身近になる情報発信中！！
海と船のポータルサイト「海ココ」開設 →



配布先：海運関係業界プレス

近畿内航船員対策協議会（会長：林 一男 田渕海運(株)取締役）は日本内航海運組合総連合会が行う船員確保チャレンジ事業の採択を受け、海運の重要性や船員の仕事についてPRし、海の仕事や船に対する子ども達の興味や関心を高めて、船員の仕事を将来の職業の選択肢の一つに入れてもらえることなどを目的に児童養護施設と連携した船員確保対策事業を実施しました。

児童養護施設の児童を対象にチャレンジ事業を実施しました。

令和8年8月29日（土）大阪府大阪市の社会福祉法人海の子学園の入所児童13名と施設職員5名の計18名を対象に、チャレンジ事業を実施しました。



海洋学習は近畿内航船員対策協議会の構成員である磯合信之氏（三興海運(株)上席執行役員）が講師を務め、日頃、「海運」や「船員」に接する機会の少ない児童に、「海運」がなぜ重要か、「船員」はどのような仕事をしているかについて、パワーポイントを用いて、わかりやすく説明を行いました。

物流には陸運、空運、海運があることを挙げて、その中でも海運は、日本の貿易量の99.7%を担っており、多くの資源を輸入に依存している日本において、安定的な経済活動と日常生活を支える非常に重要な役割を担っていることを説明しました。船が止まると私たちの生活にどれほど影響するのかを、児童たちにも身近なコンビニやスーパーに並んでいる食料品などの例を挙げ説明すると、たくさんの驚きの声が上がリ、海運の重要性を認識できたようでした。

また、内航船員の実際の生活について、内航船員は他の業種の同年齢に比べて賃金の水準が高いことや、3ヶ月乗船して1ヶ月休暇するサイクルがメインであることを紹介し、船員の魅力をアピールしました。とくに20代で高級車を購入、30代で家を持つことができることなどを紹介すると、児童から「いいなあ」と歓声が上がりました。



最後に、「物流には船も大きな役割を果たしており、それを支える内航船員という職種があることを知り、将来を考える際に内航船員のことを思い出し、選択肢の一つに加えてほしい」とメッセージを送り、海洋学習は終了となりました。



操船シミュレーター体験

その後、商船三井ミュージアム「ふねしる」に移動し、館内説明を受けた後、4班に分かれて操船シミュレーターの体験や、実際に乗組員が着用する制服を着て記念撮影などが行われました。操船シミュレーター体験では、途中で操船を代わりながら、皆が船長になりきってゴールを目指して頑張っていました。嵐になると急激に視界が悪くなったり、夜に



ウインドハンターの様子

なるととてもきれいな夜景が見られたりと、その臨場感に大人も子供も大喜びの様子でした。

また、大阪・関西万博の人気展示であったWIND HUNTER（ウインドハンター）が「ふねしる」に移設されており、グリーン水素を創るために、皆が一生懸命にうちわで風を送って、未来の技術を体験して盛り上がりました。

そして、最後に「さんふらわあ」の船内見学です。車両甲板から乗船し、アトリウムに到着すると豪華な船内に児童は大はしゃぎです。

普段入ることの出来ない船橋に入って、実際に船員の方から船の説明や船内での仕事などについてお話があり、その後は、望遠鏡をのぞき込んだり、船橋内を隅々まで探検していました。

次に、客室の見学では、スイートやプライベートなど様々な種類の部屋や展望大浴場などを見学しました。幸い天候にも恵まれ、展望デッキへ出ることができ、心地よい潮風と見慣れない景色に心を躍らせている様子でフェリーでのひと時を楽しんでいました。



さんふらわあの船橋

近畿運輸局では、今後も近畿内航船員対策協議会と連携して、海運の安心かつ安全な輸送に活躍する船員の確保のため、「海運の重要性」や「船員の仕事」についてのPR活動を積極的に行い、「船員」の仕事が将来の職業の選択肢の一つとなるよう引き続き活動してまいりたいと考えています。

（近畿運輸局 海事振興部 船員労政課）